

2022年度業務実績報告書

提出日 2023 年 1 月 5 日

1. 職名・氏名 准教授 金粕仁美

2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井県立大学、授与年 2016年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 小児看護学概論（1単位 毎年開講） 学部2年次生（2022年）
②内容・ねらい 子どもと家族を取り巻く社会の変遷を概観した上で、小児医療・看護の現状について学ぶ。また、子どもを理解するための発達理論や子どもの成長発達の特徴と支援について学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 子どもの成長発達や発達理論に関しては、小児看護学や小児看護学実習でも活用できるように、子どもの成長発達の特徴をまとめたレポート（穴埋め式）を作成し、教科書を基に事前学習をしてから授業に取り組んでもらうようにした。講義は主にこのレポート内容に基づいて行い、発達段階ごとの動画を取り入れることで学生の学びを深められるように工夫した。小児医療・看護の変遷や小児医療・看護の特徴については、講義内容に関するミニテストを取り入れて知識の定着を図った。小児医療における倫理・医療安全に関しては、講義に加えて事例を用いたグループワークを取り入れることにより、学生が具体的に倫理や医療安全について考えられる機会を持てるように工夫した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 母子保健学（1単位 毎年開講） 学部2年次生（2022年）
②内容・ねらい 母子保健学では母親の健康増進と子どもの成長・発達は密接な関係があり、母性保健学と小児保健学を一体として捉えて教授する。母性は女性の生涯にわたるリプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖に関わる健康と権利）の視点に立ち、母子保健の歴史的な変遷と保健統計、ならびに健全な母性の育成と健康づくりにむけた保健政策の現状と課題を教授する。小児保健の内容として、子どもと家族を取り巻く社会の変遷と子どもの保健・福祉に関する法律・施策、子どもを健全に育むための支援について授業を展開する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 小児保健に関連する部分の授業を担当した。子どもの保健・福祉に関する法律・施策に関しては、講義を主体としてミニテストを取り入れることで知識の定着を図った。子育て支援や障害児支援の事業に関しては、事例の動画を取り入れることで、学生が現状と課題を理解できるよう工夫した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 学校保健Ⅰ（1単位 毎年開講） 学部2年次生（2022年）
②内容・ねらい 子どもの健康課題に取り組むために、地域医療の観点から、人間の発育発達及び様々な健康レベルの理解と健康課題を見つけ理解し、学校保健と地域保健の組織活動について学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学校保健に関連する法律・制度、学校保健のしくみ、養護教諭の職務（健康診断、健康相談、保健指導、感染症予防と対策、事故防止、救急処置）については、主に講義を行い、講義毎にミニテストを実施することで知識の定着を図った。学校保健における健康課題への対策については、医療的ケアを必要とする子どもへの教育、発達障害児への教育、LGBTの子どもへの支

援など、10 テーマから発表テーマを選択してもらい、グループワークとプレゼンテーションを取り入れることで学生の関心を高め、主体的に学習できるように工夫をした。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
小児看護学 (2 単位 毎年開講) 学部 3 年次生 (2015 年～)

②内容・ねらい (自由記述)
さまざまな発達段階・健康障害とその段階・生活過程にある子どもに対し、適切な看護を行うための基本的な考え方と看護技術について学ぶ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)
小児看護に必要な考え方と看護技術を身につけるために、アセスメントから看護計画までの看護過程の展開、及び小児看護技術演習の 2 部構成で展開している。看護過程の展開では、小児看護学実習で受け持つことの多い疾患を中心に 3 事例展開しており、うち 1 事例では子どもの発達段階に合ったプレパレーションの計画を具体的に立案している。少人数のグループワークを多く取り入れ、他の学生との意見交換を通して自身の考えを発展できるようにしている。技術演習に関しては、小児看護技術レポート (穴埋め式) を作成し、教科書を基に事前学習をしてから取り組んでもらうようにしている。乳児や幼児の人形を用いた技術演習を行ったり、輸液療法を受ける子どもの体験などを体感してもらうことによって、治療を受ける子どもの気持ちを理解し、子どもとの関わり方について具体的に考えられるように工夫している。また、演習後にミニレポートを取り入れることにより、自身の看護技術を振り返る機会を設けている。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
小児看護実習 (2 単位 毎年開講) 学部 3 年次生 (2015 年～)

②内容・ねらい
子どもの成長発達、及び健康障害が子どもの身体・こころ・社会関係に及ぼす影響を理解し、より健康に育まれるよう子どものもてる力を活かしながら看護を実践し、評価する看護実践能力の修得を到達目標とする。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
小児看護学実習は、4～5 日間の小児病棟／医療型障害児入所施設での実習、及び 1～2 日間の保育園／福祉型児童発達支援センターでの実習を行っている。小児病棟／医療型障害児入所施設での実習では、入院／入所する乳児期から思春期・青年期の子どもを 1 名受け持ち、アセスメントから看護評価までの看護過程の展開を行っている。個別指導やグループカンファレンスなどを多く取り入れ、3～4 人の学生に対して 1 名の教員が継続してサポートするようにしている。また、臨床指導者等とのカンファレンスも取り入れており、より臨床に即した助言を得られる機会となっている。保育園／福祉型児童発達支援センターでの実習については、実習のねらいに沿って見学実習し、臨床指導者とのカンファレンスや学内でのグループワークにより学びを深められるよう工夫している。学生が主体的に自己の看護実践能力を高めていけるように、実習前には自己課題を明確にし、実習後には自己評価と今後の課題の設定ができるように個別面談を行っている。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
小児看護発展セミナー (2 単位 毎年開講) 学部 4 年次生 (2018 年～)

②内容・ねらい
既習の小児看護学関連の学習内容を踏まえた上で、学生自身がテーマを選択し、小児看護の専門性を探求する。具体的には、子どもとその家族に関連するテーマを選択し、医療・保健・福祉・教育等の連携の視点で文献検討を行う。また、文献検討の結果をプレゼンテーションし、グループメンバーによるディスカッションを通して学びを深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
学生自身がテーマを選択し、学生主体で文献検討に取り組めるように工夫している。またプレゼンテーションや、学生同士のディスカッションを複数回取り入れるようにし、他の学生との意見交換を多く行うことで学びを深められるようにしている。

<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 教職実践演習（養護教諭）（2単位 毎年開講） 学部4年次生（2022年）</p>
<p>②内容・ねらい 養護実習のふり返りと履修カルテを基に、養護教諭になるための課題をみつけ、課題の克服を意識しながら学習を進めていく。まず、保健室経営や学校集団のなかでの感染症対策、保健指導など、養護教諭が行う活動場면을複数取り上げ、演習や討議、およびゲストスピーカーによる講義を受け、養護教諭として自らの力量と資質を向上する。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 養護実習での学びを基に、教科書等の知識に戻って振り返ることができるように助言した。グループワークやプレゼンテーションを多く取り入れ、他の学生との意見交換を通して学びを深められるよう工夫している。また、養護実習で実際におこなった模擬授業の一部を発表することにより、他の学生の実践から学び、今後の健康教育等に活かせるようにしている。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（3単位 毎年開講） 学部4年次生（2017年度～）</p>
<p>②内容・ねらい 自ら探求する態度と、研究能力の基礎を身につけることを目的としている。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 個別指導での文献検討や計画検討をおこないながら、研究方法の学習や研究課題の明確化ができるように支援している。研究計画書作成後は、学生が問題なく分析や論文執筆や研究発表をすすめられるよう個別にメールや面談などで指導をおこなっている。</p>
<p>(2)その他の教育活動</p>
<p>・バドミントン部顧問（2019年～）</p>

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0本】
②学術論文（査読あり）	【0本】
③その他論文（査読なし）	【0本】
④学会発表等	
1. 金粕仁美, 白岩八千代, 渡邊浩子, 妊娠中期の抑うつ症状・不安・オキシトシンと産後のボ ンディングとの関連, 第36回日本助産学会学術集会, 2022.3.19-20	【1件】
⑤その他の公表実績	【0本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】	
・2018～2022年度 科学研究費助成基金若手研究 研究代表者 260万円	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
・日本看護研究学会近畿・北陸地方会 広報委員会 (2018～)	

5. 地域・社会貢献活動

<ul style="list-style-type: none">・福井県小児糖尿病サマーキャンプ（2016年～現在に至る）・国際認定ラクテーションコンサルタント（認定2012年、2017年、2022年）・新生児蘇生法「一次」インストラクター（認定2015年、2020年）・福井県立大学 新型コロナワクチン接種業務（2022年12月16日、20日）・開放講義 三国高校進路ガイダンス②（2022年7月11日）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
<ul style="list-style-type: none">・障害学生支援部会（2021年～現在に至る）・フィンドレー大学学国際交流WG：メンバー（2016年～現在に至る）・実習検討委員会：委員（2016年～現在に至る）・カリキュラム検討委員会：委員（2022年）
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など